

どやがわかも 木の木です！

大田市ふるさと情報誌

VOL.54
2024. 9



新馬路まちづくりセンター コワーキングスペースを開設！

令和6年3月末、馬路まちづくりセンターの新築移転に伴い、多くの方々にご利用いただける「コワーキングスペース」を開設しました。観光客やリモートワーカー、そして大人から子どもまで、地域住民と気軽に交流できるスペースとなっています。

馬路地区は、国指定天然記念物である鳴砂（琴ヶ浜）をはじめ、世界遺産の一部である鞆ヶ浦を巡る遊覧船や新築移転に伴い新たな事業として観光名所を巡るレンタサイクル事業など観光にも力を入れています。コワーキングスペースをご利用の際には、遊覧船やレンタサイクルも利用されてみませんか。

コワーキングスペースについてご予約・お問合せ先

馬路まちづくりセンター

☎ 0854-88-9070

島根県大田市仁摩町馬路831番地6

遊覧船についてご予約・お問合せ先

鞆の銀蔵（とものかなぐら）

☎ 0854-88-3015

レンタサイクルについてご予約・お問合せ先

馬路おこし会ふるさと振興部

☎ 080-2344-8357

※土日祝日は事前に予約が必要となります。

畠本 真衣さん

2018年に大阪から大田市水上町へUターン。
古民家を改装して「ごはん屋花種」を開かれました。
現在は、ご夫婦と小学生のお子さんの3人で暮らされています。

Instagram



■地域が求めていいるもの、わ
たしたちが求めているもの
伝えたい」と言われて手伝

■こだわりは地元産の食材
水上町で飲食店を営んでいま
す。夫が作ったお米と、地元の生
産者さんのお野菜やお肉などを
使用してお料理を作っています。
その時期にあるもので厳選した
食材を食べられたら幸せだなと
思います。なので食材は毎日変
わります。自分も楽しいし、お客
さんにも楽しんでもらいたいで
す。その時期に一番おすすめし
たいお料理をお出ししています。



鶏のお世話をするご家族

地域の方々は歓迎してください
ました。移住した頃に、「手
伝ってほしい」と言われて手伝

一番求めていたので、地域の方
が求めているものと、私たちが
やりたいことが一致したという
のが大きかったと思います。

■子どもを育む豊かな自然環境
お店の周辺ではお花や山菜な
どが取れます。山には美味しい
ものが揃っているので、自然の
動物との競争です！

子どもと一緒に散策すること
もあります。筍と一緒に探したり、
最近では「自分がやるよ」と自ら
掘ってくれたりしています。お家

定期的に「花種の小さなマル
シェ」を開いていて、人々の出
会いの場になっていると感じて
います。今後は、不定期ではあ
りますが、竹林コンサートのよ
うな、自然豊かな場所で音楽を
楽しめるイベントなど、この地
域だからこそできることをやっ

■コミュニケーションを楽しむ

移住元と大田市とで使つてい
る方言などが違うと、イント
ネーションが伝わりにくくて言
葉の壁を感じたり、移住先の集
落のマイルールのようなものが
あって、最初は疎外感を感じた
りするなど、移住には苦労もあ
ります。けれど、実際に住んでみ
ると、コミュニケーションで何と
かなるってしまうこともたくさん
あります。コミュニケーション
を楽しむことができれば、豊か
な暮らしに変わっていくんじゃない
かなと思います。

始めた農業は、夫の今の米作
りに繋がっています。高齢化が進む地域なので、戦
力として一から米作りを教えて
もらっていました。

朝早く草刈りなどを始めて、戦
日が落ちる前には終えて夕方に
は帰る。都会では考えにくいで
すが、私たち家族が理想とした
暮らし方になります。

自然に寄り添った暮らし方を
簡単に言つた暮らし方を

で鶏を飼育したりもしています。
大阪での暮らしとの違いは、
自然が当たり前になっているの
で、子どもは動じることもなく、
臆することもなく、向かっていく
精神力がついているように思
います。距離を歩かないと目的地
にはたどり着かないで、体力
的にも強くなっています。

■この地域だからこそ できること

東京に島根がやってくる！ しまね暮らしマルシェ・しまね移住フェア 開催

島根県と(公財)ふるさと島根定住財団が主催する「しまね暮らしマルシェ&しまね移住フェア」が東京で開催されます。

このイベントは、島根県全19市町村の移住担当者や、関係機関、移住の先輩など、島根県民が東京に集合し、移住の様々なご相談に対応します。

日時
令和6年
10月19日

場所
東京国際
フォーラム

時間
11時～16時



相談風景（大田市ブースにて）



7月13日(土)に開催された大阪会場では、935名の方が移住相談に来場されました。大田市ブースにもたくさんの方にお越しいただき、住まいや仕事など、様々なご相談に対応しました。

島根県の美味しい特産品や暮らしの体験ブースなど、イベントをより楽しんでいただける催しが実施されました。10月に行われるイベントでも予定しておりますので、ご家族やお友だちをお誘いの上、ぜひご参加ください。大田市ブースでも特産品をご用意してお待ちしております。

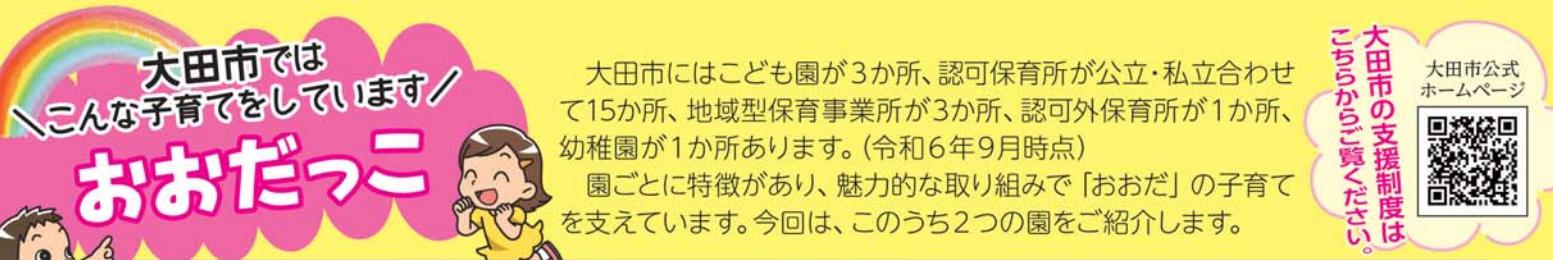
大田市公式LINEアカウント

二次元バーコードを
読み込んで友だち登録
をしてください



大田市のイベントや観光スポット、
支援制度など、大田市の情報を毎週
2回程度配信中です。移住相談会
などの定住情報も配信しています。
ぜひご登録ください。

どがなかなか大田市です!!2024.9



おおだっこ

認定こども園あゆみ保育園

場所: 大田市大田町吉永1313-1
TEL: 0854-82-1791



田植え体験の様子



泥んこになりながら頑張りました♪

大森さくら保育園

場所: 大田市大森町三4-4
TEL: 0854-89-0299



川遊びの様子



小魚いるかな?
自然が子どもたちの遊び場です

今年の5月に新園舎に移転しました。昭和47年の開設以来「保護者の子育てと仕事の両立支援を」という思いで、今年52周年を迎えます。園舎が変わっても、「太陽と水と泥んこと!!」たくさんの自然にふれ、子ども達がのびのびと過ごしています。また、一時預かりや子育て拠点事業、ファミリーサポートセンター事業等を行い、未就園のお子様や家族の方も利用できる施設として子育てをサポートしています。

歴史と豊かな自然が息づく世界遺産の町、石見銀山の中心にある保育園です。近年、トランジションやリターンが増加し、移住されたご家族が全体の半数以上を占めています。昨年から始めた「保育園留学」では、都心部や海外からのお子様も受け入れ、グローバルで多様な交流が広がっています。この小さな町で、大きな心を育む環境の中、日々かけがえのない経験を重ねています。



寄附の使い道	活用額
定住促進	2,855万円
参画と協働のまちづくり	4万円
石見銀山のまちづくり	1,723万円
文化・芸術・スポーツの振興	3,860万円
自然体験から学べる山村留学事業	409万円
「大田の大あなご」ブランド化事業	195万円
日本遺産「石見の火山が伝える悠久の歴史」推進事業	418万円
未来を担う「おおだっこ」の子育て支援・少子化対策事業	3,680万円
新型コロナウイルス感染症対策	34万円

ふるさと納税は、生まれた故郷や応援したい自治体に寄附ができる制度です。
令和5年度のふるさと納税寄附金額は、9,605件、2億379万2千円でした。
たくさんの方から寄附をいただきました。ありがとうございます!
お寄せいただいた寄附金は、大田市まちづくり推進基金へ積み立て、表通り活用させていただきました。

ふるさと納税

「文化・芸術・スポーツ振興」では、部活動補助として、部活のユニフォーム、道具の購入、また中学校体育文化振興事業として、選手の派遣補助へ使用しました。



返礼品は、大田市の特産品だけでなく、宿泊等のサービスも返礼品として準備しております。一例として、大森さくら保育園で行っている※保育園留学の費用の一部を返礼品（留学先納税）としています。
※1~2週間家族で地域に滞在する、こども主役の暮らし体験のこと

大田市へふるさと納税された方には、返礼品をお送りしています。返礼品は市内の事業者と協力してご用意しています。寄附・申込方法について、ふるさと納税のサイトをご覗ください。



留学先納税については、こちらをご覗ください。



2027年 石見銀山世界遺産登録20周年・ 発見500年に向けて

2024年7月2日に石見銀山世界遺産登録20周年・石見銀山発見500年記念事業実行委員会が設立されました。大田市長を実行委員長として、『地域振興部会』『産業振興部会』『保全活用部会』が構成されました。各部会には、自治会連合会やまちづくりセンター、観光協会や商工団体、石見銀山にある施設の管理者をはじめ、民間事業者、行政、地域などが参画し、今後具体的な施策を決めていきます。

テーマは石見銀山遺跡の「魅力化」と「持続化」。世界遺産としての石見銀山の価値を改めて見つめる機会とし、世界とのつながりや国際的な視点も持ちながら大田市の魅力を伝えていくこととしています。今後3年をかけて、記念事業によりさまざまな取組みが強化されます。

また、戦国時代に博多商人神屋寿楨により仙ノ山が発見されてから500年、大森の町並みが国の重伝建地区に選定されてから40周年という大きな節目の年を迎えるため、石見銀山エリアを中心にオール大田市の取組みとなるよう機運醸成を図ります。

世界遺産石見銀山のこれからにぜひ注目ください！

2024年7月2日に石見銀山世界遺産登録20周年・石見銀山発見500年記念事業実行委員会が設立されました。大田市長を実行委員長として、『地域振興部会』『産業振興部会』『保全活用部会』が構成されました。各部会には、自治会連合会やまちづくりセンター、観光協会や商工団体、石見銀山にある施設の管理者をはじめ、民間事業者、行政、地域などが参画し、今後具体的な施策を決めていきます。

世界遺産登録20周年・銀山発見500年に向けた様々な動きの一つに海外の歴史都市や鉱山との連携があります。一つは、1999年世界遺産に登録されたベトナム中部の歴史的な貿易都市、ホイアンがあります。ホイアン・日本文化交流祭が2003年から開催されており、2009年から大田市からも神楽団やコーラスグループが出演するなど交流を深めています。

第20回記念となる今年の交流祭に招かれて大田市議会議長、大田市教育長が参加しました。開会式とレセプションでは土江子ども神楽団が熱演し、好評を博しました。大田市その他に、長崎県、松坂市、新居浜市、堺市からも代表団が集い、交流の輪が広がっています。

二つめは、ポーランド南部に位置する「タルノフスキエ・グルイの鉛・銀・亜鉛鉱山とその地下水利用システム」です。2017年に世界遺産に登録されたこの鉱山都市は、1526年の本格的な開発から1913年まで稼働と、石見銀山とほぼ同じ時期の鉱山です。鉱山の管理は、タルノフスキエ・グルイ愛好家協会（SMZT）という入場料収入を資金源にした地元民間の団体が行っています。これも長い歴史を有する大森町文化財保存会を始めとした石見銀山のあり方とよく似ています。2017年に始まった交流は、2023年に大田市から大田市教育長を団長に派遣団を結成して訪れ、今後の連携と親密な交流を確認しました。

このような繋がりが生じるのは世界遺産であればこそ。石見銀山のみならず、連携のある箇所についても関心を広げていただければ幸いです。

お問い合わせ先

大田市教育委員会 石見銀山課
電話 0854(83)8132

大田市は、ユネスコの「平和と人権尊重」の精神に基づき、世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の保全と活用をすすめています。

シリーズ 石見銀山⑤ 広がる海外との交流



この情報誌は定住促進を目的に発行しています。
発行／大田市役所政策企画部まちづくり定住課 ☎: 0854-83-8172 FAX: 0854-82-5885
〒694-0064 島根県大田市大田町大田口1111番地 E-mail: o-tiiki@city.oda.lg.jp

大田市定住PRサイト
どがどが

